

車両火災発生等緊急時における 統一对応マニュアル

平成21年 8月 5日
社団法人日本バス協会

対応の基本

- 乗客の安全確保を最優先とし、これに最善をつくす。
- 冷静沈着に行動する。

I. 運転者の行動

1. 異常を感知したときは、ハザードランプを点灯させる。
※エンジンが停止してしまった場合には、その状態での惰行運転、降坂走行は、絶対にしない。
2. 他の交通に支障のないように直ちに停車する。
 - (1) 空き地または路肩に停車する。
 - (2) トンネル内で異常を感知したときは、可能な限りトンネルからの脱出を試み、不可能と判断したら直ちに停車する。
 - (3) トンネル内で停車するときは、道路幅員が狭いので、可能な限り左側に寄せる。
 - (4) エンジン、冷暖房を止める。なお、夜間、トンネル内は全灯火を点灯する。
3. 点検のため、バスの外に出るときは、
 - (1) 車線上には出ない。
 - (2) 夜間・トンネル内では、懐中電灯を自分に当てて存在を示す。
4. 点検のときは、
 - (1) 火災が発生しているかどうかを確認する。
 - (2) 故障の場合は、燃料・オイルが漏れていないか、その他電気系統の異常等による火災の恐れがないかどうかを点検する。
5. 4の点検の結果、火災または火災のおそれがあるときは、
 - 5-1
(1) 直ちにメインスイッチを切る。その際、ドアの開放状態を確保するため、エア一抜き等必要な措置を講じる。

- (2) 乗客の車外への脱出を優先することとし、停止表示器材（通称「三角停止表示板」）、発煙筒による後方防護及び輪止めをする。
- (3) 乗客に冷静沈着に状況を説明し、運転者の指示に従うよう徹底する。
- (4) 乗降口からの脱出を優先し、不可能な場合は、非常扉、窓からの脱出を指示する。
- (5) 火災のときは、燃焼部位に近い乗客、その他のときは、脱出口に近い乗客から脱出させる。この場合、負傷者、障害者、高齢者、子供、女性を優先する。
- (6) 肌の露出部分は、衣類等で覆うよう指示する。
- (7) 非常口から脱出する場合は、後方防護等の安全確認を再度行うとともに、乗客の協力を求めて開始する。
- (8) 窓から脱出するときは、ガラスの破片を取り払う。
- (9) 負傷者、障害者、高齢者、子供、女性が、非常口、窓から脱出する際には、他の乗客の協力を要請する。

**※負傷者がいるときは、救出・救護を最優先とする。
応急処置の留意点は、【別紙参照】**

5-2

車外への脱出後は、

- (1) 車内に残った乗客がいないか再確認をするとともに、乗客名簿等必要帳票類を持ち出す。
- (2) 見通しの悪い場所や追突のおそれがある場所に停車したときは、ガードレールの外側など車線外に誘導する。
- (3) 車線の横断はしない。止むを得ず行う場合は、安全を確認しながら一人毎に行う。
- (4) トンネル内では、最寄りの避難口を利用する。ただし、火災のときは、風上の避難口に誘導する。

乗客の安全を確保した後、状況に応じて初期消火に当たる。

5-3

車外（野外）での乗客の安全確保後、110番または119番へ通報する。

- (1) 状況により乗客に通報を依頼する。
 - (2) トンネル内、高速道路等で、近くに非常用電話があるときは、それによる通報を優先する。
6. 運行管理者に事故発生を報告する。
後方防護、負傷者の救護、乗客の誘導、警察（消防）への通報後に報告する。

7. 4の点検の結果、火災の恐れが無く（単なる故障等）、かつ、追突の恐れが無いときは、車内待機とする。

※負傷者がいるときは、救出・救護を最優先とする。
応急処置の留意点は、【別紙参照】

7-1

- (1) 乗客に状況を説明し、運転者の指示に従うよう徹底する。
- (2) 後席の乗客は前席へ、車線側の乗客は路肩側へ移動させる。
- (3) 停止表示器材、発煙筒による後方防護を行う。

7-2

- (1) 必要に応じ110番または119番へ通報する。
- (2) 状況により乗客に通報を依頼する。
- (3) トンネル内、高速道路等で、近くに非常用電話があるときは、それによる通報を優先する。

7-3

10分ごとを目安に状況を説明し、乗客の不安解消に努める。

8. 運行管理者に事故発生を報告する。

後方防護、負傷者の救護、警察(消防)への通報後に報告する。

II. 運行管理者及び運行事業者の行動

1. 運行管理者は、運転者からの第1報を受けたときは、

- (1) 運転者が混乱しているときは、落ち着くよう指示する。
- (2) また、運転者や乗客が動揺しないよう、落ち着いた指示を出す。

○事故の概要を把握する。

- ① 発生時間、場所・負傷者の有無及び程度
- ② 救急車の手配の有無
- ③ 乗客の安全確保の状況
- ④ 警察(消防)への通報の有無
- ⑤ 道路状況、天候状況

○運転者への指示(再確認)

- ① 負傷者がいれば救急車の手配等、人命救助を最優先させる。
- ② 乗客の安全確保ができていない場合にはその実施
- ③ 後方防護等2次災害の防止に努めさせる。
- ④ 警察(消防)からの指示事項があればこれを伝える。
- ⑤ 運転者との連絡方法を確認する。

2. 運行管理者は、上司及び本社へ報告する。
3. 運行管理者または運行事業者は、運輸(支)局及び共同運行会社等関係者へ連絡する。
4. 対策本部の設置
運行事業者は、次に該当する事故が発生したときは、対策本部を設置する。
 - (1)車両火災が発生したとき。
 - (2)トンネル内事故が発生したとき。
 - (3)事故の規模または社会的影響が大きい事故が発生したとき。
5. 運行事業者は、次の救援体制をとる。
 - (1)現場付近のバス会社、共同運行会社等に救援車を依頼する。
 - (2)状況により、付近に自社の後続車・対向車があれば、現場付近に待機させ、情報収集を指示する。
 - (3)救援車の手配が整ったら現場に連絡する。
 - (4)待機時間が長時間に及ぶ恐れがある場合には、
 - ①食料、飲料等を確保する。
 - ②休憩所・毛布、タオル等を手配する。
 - ③代替交通機関、宿泊施設等を手配する。
6. 運行事業者は、負傷者が発生した場合には、
 - (1)住所、氏名、連絡先等を確認する。
 - (2)搬送先、負傷の程度を確認し、家族等へ連絡する。
7. 乗客の連絡先及び携行品等の確認
 - (1)運行事業者は、乗客の連絡先を確認する。
 - (2)滅失、損傷した物品等を把握する。

別紙

応急処置の留意点

運 転 者 基 本 動 作	留 意 事 項
<p>負傷者がいるときは、 (1)乗客に医師、看護師等がいるかどうかを呼びかけ、協力を要請する。</p> <p>(2)他の乗客にも協力を要請し、救急車を手配するとともに応急手当を行う。</p>	<p>救急車・医師が到着するまでの応急手当</p> <p>(1)負傷者の観察</p> <ul style="list-style-type: none">・意識があるか(話しかけてみる。)・呼吸しているか(胸の動き、頬を口や鼻に近づけてみる。)・出血(どこから、どの程度出血しているかみる。)・嘔吐しているか(口・喉等に汚物があるかどうかをみる。)・その他、身体の一部が変形していないか、局所に強い痛みを訴えているかみる。 <p>(2)応急手当</p> <ul style="list-style-type: none">・止血(激しいときは、出血部位より心臓に近い上腕、股の付け根などを、三角きんやハンケチ等で血が止まるまで強く縛る。)・意識のない場合・嘔吐の場合(のどに物がつまって窒息しないよう)横向きに寝かせる。・頭部や頸部に損傷がある場合、そのままの姿勢で、救急車の到着を待つ。・心肺停止状態にあるときは、乗客の協力を求め、人工呼吸及び心臓マッサージを行う。 <p>ダメージの大きい負傷者を優先する。</p>